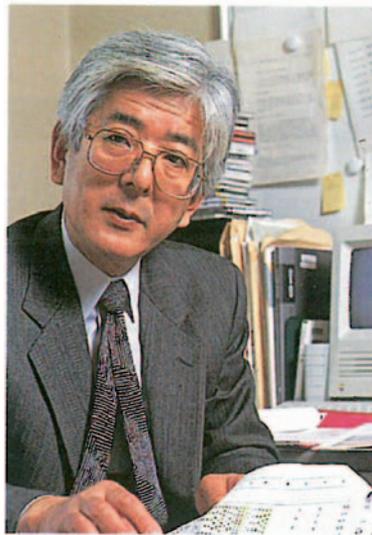






<1982年 入試本部にて (前列中央) >



<1997年 研究室にて>

巻頭言：松井二郎名誉教授追悼号の発刊に寄せて

社会福祉学部長 田 中 耕一郎

皆様も既にご存知の通り、本学名誉教授の松井二郎先生がさる2017年4月13日に逝去されました。先生とご学縁をお持ちの方々をはじめ、本学でともに教育活動に携われて来られた方々にとって、突然の訃報は誠に驚きの極みであったことでしょう。

松井先生は1965年、本学の草創期に文学部助手としてご着任され、その後、文学部専任講師、助教授、教授を経られ、1998年には誕生後間もない新しい社会福祉学部の学部長に就任され、その運営にご尽力をいただきました。

また、システム論による「社会福祉理論パラダイム」の再検討など、社会福祉理論に関する多くの著書・論文を執筆され、日本社会事業学校連盟や日本社会福祉学会の理事として、日本の社会福祉研究、社会福祉教育を牽引されてきました。

松井先生の代表作とも言える『社会福祉理論の再検討』（ミネルヴァ書房、1992年）は、内外の社会福祉理論の精緻な検討を通して、先進資本主義社会における社会福祉制度を分析する理論的枠組みの構築を試みられるとともに、この枠組みから日本型福祉国家の特徴を明晰に分析されたものであり、その学問的水準の高さは多くの研究者から評価されました。社会福祉理論研究に関しては門外漢の私も、本著が刊行された時に、その論旨の明快さに強く惹きつけられ、夢中になって読んだことを覚えております。

巻頭言ではありますが、私の個人的な体験を述べさせていただきます。私が北海道に住居を移して研究活動を始めた20数年前、この地で最初に執筆した論文を、知人を介して松井先生に読んでいただいたことがあります。拙論をお送りしてから数日後、先生は面談の時間を取ってくださいました。とても緊張しつつ、先生の研究室を訪れましたが、先生は開口一番、「勉強させていただきました」と柔和な表情で仰ってください、とても恐縮したことを覚えております。その後、私の今後の研究計画や、当時の社会福祉研究の動向全般などについてさまざまな話をしましたが、辞去の間際に先生は、「北海道はいいところです。是非、腰を落ち着けて研究を続けてください」と励ましてくださいました。まだ駆け出しの研究者であった私には、この松井先生の言葉がその後の研究者生活の大きな支えとなりました。

私が本学に着任したのは2003年4月ですので、松井先生が退官される2007年3月までの4年間、同じ社会福祉学部で過ごさせていただきました。所属学科が異なりましたが、松井先生とお会いできる機会は教授会や研究科委員会しかありませんでしたが、時折、先生のお姿を拝見するたびに、研究者としての自己のあり方を振り返っておりました。

松井先生のご足跡を振り返りますと、そのご功績の大きさを改めて知らされる思いです。

本号では、北星学園大学文学部・社会福祉学部で研究・教育活動をされた松井先生の追悼号として、ご学縁をお持ちの方々にご寄稿をいただきました。多彩なテーマによる寄稿論文より編まれたこの論文集は、松井先生の研究・教育活動の広さと深さを示すものといえましょう。

最後に改めて松井先生の学恩に感謝の意を申し上げるとともに、哀悼の意を表して、この追悼号の巻頭言といたします。

故 松井二郎名誉教授のご略歴

1939年 3月 3日	鳥取県にて出生
1961年 3月	早稲田大学教育学部教育学科卒業（文学士）
1963年 3月	明治学院大学大学院文学研究科社会福祉学専攻修士課程修了
1963年 4月	札幌厚生会白石福祉園（救護施設）指導主事として着任
1965年 4月	北星学園大学文学部助手として着任
1967年 4月	北星学園大学文学部専任講師
1970年 7月	北星学園大学文学部助教授
1978年 4月	北星学園大学文学部教授
1984年 7月	英国・University College, School of Social Work 客席研究員 (1985年 3月まで)
1985年 4月	北星学園大学図書館長（1987年 3月まで）
1992年 4月	北星学園大学大学院文学研究科教授
1996年 4月	北星学園大学社会福祉学部教授・福祉計画学科長 (1998年 3月まで)
1998年 4月	北星学園大学社会福祉学部長（2002年 3月まで） 北星学園大学大学院文学研究科長（2000年 3月まで）
2000年 4月	北星学園大学大学院社会福祉学研究科長（2002年 3月まで）
2007年 3月	北星学園大学定年退職
2007年 4月	北星学園大学名誉教授
2017年 4月13日	逝去（享年78歳）

学会および社会における活動

- ・日本社会福祉学会会員（1963年 4月～）
- ・日本社会福祉学会理事（1992年～1998年）
- ・北海道社会福祉学会会員（1963年 4月～）
- ・日本基督教社会福祉学会会員（1975年～）
- ・北海道社会福祉協議会社会福祉研修所運営委員会委員長（1985年～1998年）
- ・日本社会事業学校連盟理事（1988年～1994年）
- ・北海道地方福祉審議会社会福祉研修充実検討委員会委員（1992年～1993年）
- ・北海道共同募金会配分委員会委員長（1998年）
- ・北海道共同募金会理事（1999年）

故 松井二郎名誉教授 業績目録

● 編著書

- ・「社会福祉実践の基礎」松井二郎・仲村優一編『講座社会福祉 第4巻 社会福祉実践の基礎』有斐閣, 1981年.
- ・「社会システム論と社会福祉理論」仲村優一監修『社会福祉方法論講座第2巻 共通基盤』誠信書房, 1985年.
- ・「イギリスにおける施設ケアの実践綱領」伊部英男・石井哲夫編『明日の福祉第2巻 これからの福祉施設運営』中央法規出版, 1987年.
- ・『社会福祉理論の再検討』ミネルヴァ書房, 1992年.
- ・「施設ケア基準に関する最近の動向」忍博次・松井二郎・大坊郁夫・池田雅子編『福祉社会の展開と課題—新しい福祉のパラダイムを目指して—』北大路書房, 1996年.
- ・「社会福祉政策の動向と理論的視角」濱野一郎・遠藤興一編『社会福祉の原理と思想—主体性・普遍性をとらえ直すために—』岩崎学術出版社, 1998年.
- ・「社会福祉再編期における社会福祉理論の課題」松井二郎・阿部志郎・右田紀久恵・宮田和明編『講座社会福祉の総括と21世紀への展望第2巻 思想と理論』ドメス出版, 2002年.

● 論文

- ・「社会福祉施設の組織構造—社会福祉施設管理・運営論の批判的検討—」『北星論集』3号, 1966年.
- ・「社会福祉施設の組織分析—特に官僚制と専門職業の闘争の分析—」『北星論集』4号, 1967年.
- ・「福祉事務所における職員の価値志向の問題」『北星論集』7号, 1970年.
- ・「社会福祉行政と施設の管理・運営をめぐる諸問題」『社会福祉研究』9号, 鉄道弘済会, 1971年.
- ・「近代社会事業の独自の性格としての合理的『経営』—孝橋正一著『社会事業の基本問題』における社会事業の本質規定の検討—」『社会福祉学研究』10周年記念号, 明治学院大学大学院, 1971年.
- ・「ウェーバー宗教社会学における慈善の成立と禁欲的プロテスタンティズムの倫理」『北星論集』8号, 1971年.
- ・「ウェーバー宗教社会学におけるアジア宗教と慈善」『北星論集』10号, 1973年.
- ・「アメリカ・ソーシャルワーク理論の最近の動向」『北星論集』11号, 1974年.

- ・「社会福祉，ソーシャル・ワークの情報—資源処理パラダイム—福祉社会学試論—」
『北星論集』13号，1975年.
- ・「ソーシャル・ワーク実践の共通基盤を求めて」『北星論集』14号，1976年.
- ・「難病と社会福祉」『北海道難病連白書』1977年.
- ・「社会福祉とシステム理論」『社会福祉研究』20号，鉄道弘済会，1977年.
- ・「ソーシャル・ワーカー論—哲学的基盤を求めて—」『北星論集』15号，1977年.
- ・「福祉社会学の構想Ⅰ」『北星論集』16号，1978年.
- ・「福祉社会学の構想Ⅱ」『北星論集』17号，1979年.
- ・「福祉社会学の構想Ⅲ」『北星論集』18号，1981年.
- ・「ウェーバーの福祉国家論」『北星論集』19号，1982年.
- ・「社会福祉理論の体系化を目指して—諸理論の検討—」『社会福祉研究』30号，
鉄道弘済会，1982年.
- ・「地域福祉システム化のための思想」『地域福祉研究』11号，日本生命済生会，1983年.
- ・“Residential Care and the Training and Qualification of Social Workers in Britain and
Japan ; Some Comparisons”『北星論集』23号，1986年.
- ・「英国における施設ケア論の動向」『ソーシャルワーク研究』15巻2号，
ソーシャルワーク研究所，1989年.
- ・「転換期における社会福祉理論—機能分析の整理に向けて—」『北星論集』27号，
1990年.
- ・「平成元年社会福祉展望：原理論・行財政部門」『社会福祉研究』47号，鉄道弘済会，
1990年.
- ・「平成2年社会福祉展望：原理論・行財政部門」『社会福祉研究』50号，鉄道弘済会，1991
年.
- ・「平成3年度社会福祉の回顧と展望：原理論・行財政部門—日本型福祉社会の特質と限界—」
『社会福祉研究』53号，鉄道弘済会，1992年.
- ・「日本型福祉行政の特質」『社会福祉研究』56号，鉄道弘済会，1993年.
- ・「福祉国家の存立構造と分析視角」『季刊社会保障研究』30巻2号，国立社会保障研究所，
1994年.
- ・「施設ケアの基準に関する最近の動向—イギリス政府関係の報告書を中心に—」
『障害者問題研究』22巻3号，障害者問題研究会，1994年.
- ・「社会保障・社会福祉のパラダイム転換—アフター・フォーディズムと福祉国家の再編—」
『社会福祉学』36巻2号，日本社会福祉学会，1995年.

● 翻 訳

- ・ポール・ティリッヒ「ソーシャル・ワークの哲学」『基督教社会福祉学研究』14号，
日本基督教社会福祉学会，1981年.

- ・英国保健・社会保障省『施設ケアの実践綱領—英国の社会福祉施設運営基準—』響文社、1985年.

●学会発表

- ・「福祉事務所におけるケースワーカーの専門的価値志向に関する研究」
日本社会福祉学会第15回大会，1968年。（忍博次との共同研究）
- ・「アメリカ ソーシャル・ワーク理論の検討」日本社会福祉学会第21回大会，1973年。
（米本秀仁との共同研究）
- ・「Social Welfare, Social Work」日本社会福祉学会第22回大会，1974年。
（米本秀仁との共同研究）
- ・「福祉と構造・機能分析—L.Lowy, その他の先行業績の検討」
日本社会福祉学会第25回大会，1977年.
- ・「福祉の一般理論をめざして」日本社会福祉学会第26回大会，1978年.
- ・「ウェーバーの福祉国家論」日本社会福祉学会第29回大会，1981年.
- ・「民生委員活動の類型と地域差の研究」日本社会福祉学会第30回大会，1982年。
（永田勝彦・米本秀仁・杉岡直人との共同研究）
- ・「民生委員に対する住民の認知度の研究（1）」日本社会福祉学会第31回大会，1983年。
（永田勝彦・米本秀仁・杉岡直人との共同研究）
- ・「民生委員に対する住民の認知度の研究（2）」日本社会福祉学会第33回大会，1985年。
（永田勝彦・米本秀仁・杉岡直人との共同研究）
- ・「社会福祉理論における機能分析の系統的整理に向けて（Ⅰ）」
日本社会福祉学会第36回大会，1988年.
- ・「社会福祉理論における機能分析の系統的整理に向けて（Ⅱ）」
日本社会福祉学会第37回大会，1989年.
- ・「社会保障・社会福祉のパラダイムの転換」日本社会福祉学会第43回大会，1995年.
- ・「社会福祉政策の動向と理論的視角」日本社会福祉学会第45回大会，1997年.

●調査研究

- ・永田勝彦・松井二郎・米本秀仁・杉岡直人「社会福祉専攻学生の実態と変容」北星学園大学
文学部社会福祉学科，1990年.

